

自由落下状態のヨーロッパ

【訳者注】現在の大量難民問題を生み出すに至った、歴史的に見た世界の構造を、説得力をもって解き明かしている。蒔いた種は刈り取らねばならないが、解決は見当たらず、この問題は（他の問題と合わさって）悪化する一方だというのは間違いない指摘だろう。沈んでいくタイタニック号上で、オーケストラが演奏されている、という結びの一文には胸を突かれる。これ以上の適切な比喻はないだろう。同じく最後のセクションの「(ソ連崩壊後は)まさにアメリカで起こったように、以前のトロツキストがほとんど一夜にしてネオコンになった」という一文も面白い。主流新聞は、数十年も前の左翼・右翼の幻想のままで編集されている。これは「アングロ-シオニスト帝国」の注文通りで、彼らは協力して、我々が目覚めるのを妨げようとしている。

By The Saker

August 28, 2015



ヨーロッパは自由落下状態にある。もはやそれを疑う者はいない。実は EU は、いくつかの厳しい問題に同時に見舞われており、どれ一つをとっても、破局をもたらす潜在性を持っている。その一つひとつを見ていこう。

28 の加盟国をもつ EU は、経済的に意味がない

EU にとって最も明らかな問題は、経済的に全く意味がないことである。その初め、1950 年代には、あまり差のない国家の小さなグループがあり、それらが、自分たちの経済を統合することにした。これらがいわゆる“内部 6 国”として、EC (ヨーロッパ共同体) を作った。すなわち、ベルギー、フランス、西ドイツ、イタリア、ルクセンブルグ、およびオランダだ

った。1960年に、これら“コア・グループ”に、さらに“外部7国”が合体した。彼らはECに参加したくなかったのだが、ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)には参加したかった。すなわち、オーストリア、デンマーク、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデン、スイス、および連合王国だった。これらの国家が一つになって、“ほとんどの西欧”と大ざっぱに呼ばれるものができた。

いろんな欠点はあったが、これらの条約はある現実を反映していた。すなわち、これに参加する国々は多くの共通点を持ち、人民は力を合わせることを望んでいた。1960年以後、ヨーロッパの統合と拡大の歴史は非常に込み入ったものになり、逆行したりジグザグに進みながら、結局最後には、この過程は制御不能になった——悪性の腫瘍のように。今日、EUには、かつて“中央”また“東”ヨーロッパと呼ばれたすべての国を含めて、28(!)カ国が加盟している。かつての“ソ連バルト3国”でさえ、現在はこの新しい連合の一部になっている。問題は、このような拡大は、イデオロギー的な理由で、ヨーロッパのエリートには魅力的だったのだが、これほどの巨大な拡張は、経済的には意味をなさないことである。スウェーデン、ドイツ、ラトビア、ギリシャ、それにブルガリアの間に、どれくらい共通点があるだろう？ もちろん非常に少ない。

今、割れひびがはっきり見てきた。ギリシャ危機と“Grexit”(ギリシャ離脱)の脅威が、いわゆる“PIGS”(ポルトガル、イタリア、ギリシャ、スペイン)の他の国を巻き込んで、ドミノ現象を起こす可能性がある。フランスでさえ、この危機の結果によって脅威を受けている。ヨーロッパの通貨ユーロは「使命なき通貨」と呼ばれる。それは、ドイツ経済やギリシャ経済を支えるものと想定されているのか？ 誰も知らない——少なくとも公的には。現実にはもちろん、メルケル夫人がすべてを仕切っていることは、誰でも知っている。“ユーロ官僚”が出している“一時しのぎ”解決策は、時間稼ぎにすぎず、明らかに組織的な問題であるもの——28カ国EUの完全に人為的な性質——の解決にはならない。

明らかな解決法は、28カ国EUという狂った夢を諦めることだが、これが完全に政治的に受け入れられないために、誰もが恐れているにもかかわらず。議論の俎上にも上らない。

EUは社会的・文化的な崩壊の崖っぷちにある

この否定できない現実には、厳しいとともにシンプルなものだ——

- *EUは、これほど多くの難民を吸収できない。
- *EUは、彼らを食い止める手段をもたない。

膨大な量の亡命者の流入は、EU 諸国が対処する用意の全くなかった、非常に複雑な安全保障問題を突きつける。すべての EU 諸国は、暴動、騒乱、犯罪あるいは侵略などから身を守るための、3つの基本的な道具をもっている。すなわち、特別/安全保障警備隊、警察、それに軍隊である。問題は、これらのどの国家も、難民危機に対処する能力がないということである。

特別/安保警備隊は、亡命者危機に立ち向かうには絶望的に数が少ない。その上、彼らの通常の対象（職業犯罪者、スパイ、テロリスト）は、通常の亡命者の波の中には、ごくわずかいない。亡命者はほとんど家族で、大人数であることが多く、犯罪者が中にあることがあっても、それはまれである。問題は、たとえば、もしコソボの亡命者の 10%が麻薬業者だとすると、そのためにコソボ亡命者全体に悪名が及び、彼らすべてが犯罪者として扱われることである。結局、特別/安保警備隊は、密告者に大きく依存することになり、外国のギャングは侵入がむつかしくなる。彼らはまた、ごくわずかの局地言語専門家にしかわからない言葉話すことが多い。その結果、ほとんどの場合、EU の安保警備隊は、彼らに突きつけられた安全保障問題にどう対処すべきか、方法がない——大人数の人々と意志を通ずる人員や手段が、不足していることだけを考えても。

これに対して、警官はいろんな利点をもっている——彼らは文字通りどこにでもいて、“巡回取り調べ”のコツは知っている。しかし彼らの権力は厳しく限られていて、仕事をするには、ほとんど裁判所命令を必要とする。警官はまた、ほとんど局地的犯罪者しか扱わないが、ほとんどの亡命者は、局地的でも犯罪者でもない。悲しい現実には、難民危機において警官のすることは、ほとんど機動隊を呼ぶことで、これはほとんど何も解決しない。

武装した軍隊はどうか？ 彼らができることは、せいぜい、国境封鎖の手伝いをするだけである。場合によっては、市民暴動のときに警察部隊を援助することができるが、これはその時だけである。

だから EU のさまざまな国家は、自分たちの国境を封鎖することもできず、亡命者を送還することもほとんどできず、彼らをコントロールすることもできない。確かに、いつでも政治家がいて、彼らを本国に送り返す方法を知っていると約束するだろう。しかしそれは粗野な、ほら吹きの上野である。これら亡命者の大多数は、戦争、飢饉、それに惨めな貧困から逃げているのであり、彼らを祖国に送り返すことは誰にもできない。

だからと言って、彼らを引き取ることは不可能である——少なくとも文化的な意味で。すべての人種、信条、それに文化を調和させるといった、超善意的なプロパガンダにもかかわらず、現実には、亡命者にそれを望ませるように EU が提供できるものは、全く何もない。そ

のすべての罪と問題にもかかわらず、少なくとも、アメリカは「アメリカン・ドリーム」を提供していて、これはウソかもしれないが、それでも世界中の人々に、特に素朴で、教育を十分受けていない人々に、希望を与えることができる。それだけでなく、アメリカ社会は、そもそも文化というものをほとんどもたない。“アメリカ文化”とは何か、と自問してみるとよい。何かであるとしたら、それは「混ぜたサラダ」でなく、実は「るつぼ」である。その意味は、何が入ってきても、このメルティング・ポットは、その本来のアイデンティティを失わせ、一方、このポットで混ぜた物は、本当の土地の文化を生み出すことはない——少なくとも、この言葉のヨーロッパ的な意味において。

ヨーロッパは、アメリカとは根本的に違っている、あるいは違っていた。それぞれのヨーロッパ国のさまざまな地方や地域に、本当の深い、文化的な違いがあった。バスク人は決してカタロニア人でなく、マルセイユ人はブレトン人ではなかった、等々。ドイツ人とギリシャ人の違いはとてつもなく大きい。現在の亡命者危機のもたらすものは、すべてのヨーロッパ文化が今、直接、そのアイデンティティと生活様式を脅かされていることである。これはよくイスラム教のせいとされるが、実は、アフリカのクリスチャンは、決して容易く融和しているわけではない。そう言えば、クリスチャンのジプシーでも同じだ。その結果、衝突が、文字通りあらゆる所で起こっている——商店、通り、学校などで。こうした衝突が社会秩序を脅かしていない国は、ヨーロッパで一つもない。これら日ごとの衝突は、犯罪、抑圧、暴力、それに移民のゲットー囲い込みという結果を産んでいる。

ほとんどではないにしても、多くのヨーロッパ人が、この移民危機から直接生ずる、生活の悪化の苦しみが、どれほどのものかは、これを見ていない人にはわかりにくい。そしてこのような不満を述べるのが、権力者によって“人種差別”だとか“外国人嫌い”と言われ（少なくとも最近までそうだった——今は次第に変わりつつある）、この深い恨みは、たいてい隠されてきたが、やはり感じ取れた。そして移民が最も強くこれを感じている。そしてこれもまた、アメリカ式のメルティング・ポット現象が、ヨーロッパでは起こらない理由である。すなわち、ヨーロッパがこれら何十万という亡命者に示す唯一のものは、恐怖、憤慨、不快感、無力感を含んだ、沈黙の敵意である。過去に自分自身が亡命者だった地方の人々（例えば北アフリカからの移民）でさえ、今は、やってくる亡命者の新しい波に、不快感をもち非常に敵対的である。そしてもちろん、ヨーロッパにやってくるたった一人の亡命者も、“ユーロピアン・ドリーム”を信じてはいない。

最後だが重要なことに、これらの亡命者は、地方経済と社会保障などにとって、とてつもない重荷である。そのような貧しい“クライアント”の流入に対処できるように、それは計画されていないからである。

予見可能なかぎりの未来の予想図は、はっきりしている——同じことが、ただもっと悪い状態で、更に多く起るだろう。

ヨーロッパは、自分自身の利益を防衛できない、アメリカの植民地にすぎない

EUは、自分自身を完全にアメリカに売った、ある階級の人々によって支配されている。この情けない有様の最上の例はリビアの大破壊で、これはアメリカとフランスが、このアフリカで最も発達した国を完全に破壊し、その結果、今はただ、何十万という亡命者が地中海を越え、戦争からの避難所をEUに求める、通り道になっている。これは容易く予想できたことである。にもかかわらず、ヨーロッパ諸国は、それを妨げるために何一つしなかった。実は、こうした“オバマ戦争”（リビア、シリア、アフガニスタン、イラク、イエメン、ソマリア、パキスタン戦争）のすべてが、避難民の大移動の原因になっている。これにエジプトやマリの混乱と、アフリカ全土の貧困を加えるならば、いかに防壁を作っても、壕を掘っても、亡命者用催涙ガスを使っても、止めることのできない大量脱出の実態がわかるだろう。

それでも十分でないかのように、EUは、ウクライナを大きな内乱へと爆発させることによって、政治的・経済的な自殺としか言えないものを犯してしまった。この内乱は4,500万の人々を巻き込み、経済を完全に破壊し、真正正銘のナチスを権力につかせた。この成り行きもまた容易く予想できた。しかしユーロ官僚たちのやったことは、ただ、自ら敗北を招くだけの経済制裁をロシアに対して課するだけで、これは結局、まさにロシアの経済が必要としていた条件、つまり方法を多様化し、すべてを外国から輸入する代わりに、自国の地方で生産する方法を考え出させた。

ここで、第二次大戦後は、ヨーロッパは基本的に被占領地域であったことを思い出すべきである。ソ連が中央・東部を占領し、米・英が西部を占領していた。我々はすべて、アメリカのプロパガンダが「ワルシャワ条約」と呼んでいたものの“抑圧”が、「北大西洋条約機構」の“保護”の下で生活している人々よりも、自由が少なかったと考えるように条件づけられている。「北大西洋」という言葉は、西ヨーロッパをアメリカに結び付けるために、意図的に造語されたものだが、ここでの中心的問題は、西側の人々が多くの点で、東側の人々よりも多くの自由を与えられていたとしても、**米・英に占領されていたヨーロッパの国々もまた、決してその真の主権を取り戻さなかったことである。**そしてソ連が東欧の各国に、地方の代官エリートを注意深く養ったように、アメリカも西側で同じことをした。その大きな違いが見えてきたのは、1980年代後半から1990年代初めにかけて、ソ連の運営していた組織全体が崩壊し、アメリカの運営する組織が、ソ連崩壊の結果として強化されたときだった。確実に言えることは、1991年以降、EU諸国に対するアメリカの鉄の縛りが、前よりもはるかに強くなったことである。

この悲しい現実は一単純だ——EUはアメリカの植民地であり、それは、基本的で明らかなヨーロッパの利益のために立ち上がることのできないアメリカの傀儡によって、運営されているということである。

EUは深い政治的危機の中にある

1980年代後半まで、何らか“本物”の反政府「左翼」政党が、ヨーロッパにはあった。実際、イタリアとフランスはでは、危うく共産党が権力につくところだった。しかしソビエト体制が崩壊するや否や、すべてのヨーロッパの反政府党派は消えるか、または急速に体制に吸収された。そしてまさにアメリカで起こったように、以前のトロツキストが、ほとんど一夜にしてネオコンになった。その結果、ヨーロッパは、“アングロ-シオニスト帝国”に対してもっていた、小さな反対党をも失い、一つの“政治的に平穏な”国土となった。フランス人が“一つの思考”と呼ぶものが今勝利した——少なくとも企業メディアによって判断するなら。政治は今や、作り事のショーとなり、さまざまな俳優が本物の問題と取り組むふりをするが、その実、彼らが話しているすべては、人為的に考え出した、作られた“問題”で、これを彼らは“解決”する。EUに残っている唯一の意味のある政治は、分離主義（スコットランド、バスク、カタロニア等）だが、これまでのところ、それはどんな代替案も生み出していない。

この“ふりをする”政治のすばらしい新世界では、誰も本当の問題を引き受ける者はいない。それは決して直接、取り組まれることなく、次の選挙まで絨毯の下に押し込まれるが、それは必然的にすべてを悪化させるだけである。EUのアングロ-シオニスト大親分について言えば、彼らは、自分たちの利益に直接の影響がなければ、何が起ころうと平気である。

現状は、タイタニック号が沈みかけているのに、オーケストラは演奏を続けており、今にも真理が迫ってくるという状態である。誰もが船長と船員を憎んでいるが、これを誰に代わってもらわなければならないのか、わからないでいる。